

『放課後子ども教室』

～交流や体験、遊びなどを担当する安全管理員の手引き～



1 交流や体験、遊びなどの活動を主とした『放課後子ども教室』



現在、県内の『放課後子ども教室』は、約160教室あり、学習や交流、体験、遊びなど、様々な形態で子どもの安全・安心な活動拠点（居場所）となっております。

中でも、安全管理員と呼ばれる方を中心に、地域の方の協力を得て、交流や体験、遊びなどの活動を中心とした『放課後子ども教室』が開催されており、県としても支援しているところです。この資料は、教室を運営する安全管理員の方を対象に作成した、安全管理上の「手引き」です。

ご一読いただき、今後の教室運営の参考にしていただければ幸いです。

2 交流や体験、遊びなどを取り入れた『放課後子ども教室』のよさ

- 異学年の仲間との活動をとおして、自ら考え役割を果たすことで、達成感や喜びを味わうことができます。
- 温かな仲間づくりをはじめ、コミュニケーション能力や社会性を身に付けることができます。
- かかわる指導者も子どもの成長を見守る中で地域の絆がより深まります。

3 安全管理員のおもな役割

安全管理員は、以下の役割が考えられますが、放課後子ども教室にかかわる指導者（ボランティアや、コーディネーターなど）の方と、役割を決めておくとういでしょう。



- ・子どもの出欠確認（安全管理日誌）と、体調確認を必ず行いましょう。
- ・活動する前に、活動場所の安全を確かめることや、遊具や道具などを直接自分の手で触れるなどして安全を確認しましょう。
- ・道具を使用する場合は、正しい使い方を実際に示し、子どもに教えましょう。また、活動中は、子どもの安全に十分配慮し、活動を見守りましょう。
- ・活動後は、活動場所や使用した遊具、道具等の点検を行い、安全であることを確認しましょう。
- ・子どもが一人で帰宅することがないように配慮しましょう。
- ・万一、怪我や事故が起きた場合は、指導者に連絡するとともに、子どもの安全を最優先に考えた対応をしましょう。

4 安全管理員として大切にしたいこと

①子どもの安全に最大限の配慮をしましょう



「いつも遊んでいるジャン
グルジム。子どもは慣れて
いるから大丈夫。」



?



「そうかなあ、もし怪我や事故が起きてか
らでは手遅れだよ。活動前に遊具や道具
の点検をしたほうがいいな。」

活動場所は、「子どもが慣れている場所だから大丈夫」と過信していると、大きな怪我や事故につながる恐れがあります。また、活動内容によっては、子どもの動き方は大きく変わりますし、使用する道具も正しい使い方をしなければ危険です。事前に複数の指導者で試してみたり、触れてみたりして場所や道具等が安全に使用できるか確認したいものです。

また、怪我や事故を防ぐには、**最低限の約束が必要**です。活動前に約束を決めておき、子どもにしっかり伝えましょう。大切なことは、なぜ、その約束が必要なのかを子どもに理解させることです。**約束は、低学年の子どもが理解でき、必ず守ることができる内容**にしたいものです。場合によっては、子どもといっしょに約束づくりをすることも考えられます。子どもは、活動や遊びの約束を意識することで、規範意識が高まり社会性も育まれていきます。

約束の内容がむずかしいから守れないよ！
約束が多いから守れないよ！

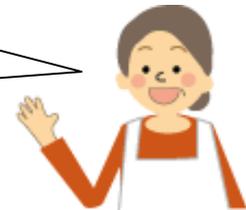


【約束の3つの視点】

- 社会性を身に付けさせるための約束
 - ・あいさつや返事、場に応じた言葉遣いをする
 - ・準備や片付け、掃除をすること
 - ・時間を守る
- 仲間と仲良く活動するための約束
 - ・ふざけない
 - ・わがままを言わない
 - ・活動や遊びのルールを守る
- 安全上の約束
 - ・無断で活動場所を離れない
 - ・遊具や道具を正しく使う



**約束は3つの視点を参考に、子どもに分か
りやすい言葉で決めましょう。
また、約束はできるだけ少なくしましょう。**



② 子どもの目線で物事を見ましょう

「子どもと仲良くなりた、いっしょに活動したい」と思っている、子どもから「話しかけてくれない」等、子どもとの距離が縮まらず、不安に感じたことはありませんか。その要因は一概に言えませんが、安全管理員は、安全を気にするあまり、「指導する」という意識が強く、上からの目線で話してしまいがちです。活動をとおして、子どもと心を通わせることが大切です。



どうして話しかけてくれないのかな？

いぼっているよな。
いやな感じ・・・



③ ねらいを明らかにしましょう

ねらいとは、体験や活動、遊びなどをとおして、子どもにこんな力を付けてほしいと願う指導者の思い（到達点）のことです。このねらいがはっきりすれば、活動が明確になり、自然とめあてや約束も明らかになります。安全管理員は、指導者の方と活動のねらいの共通理解を図り、子どもの指導や支援にあたりましょう。

④ 活動の振り返りと、道具等の片付け・点検をしましょう

活動終了後に、めあてに対する振り返りを位置付けると、活動は充実します。これは、活動を振り返ることで、次の活動をよりよくしていこうとする意欲化につながるからです。また、活動で使用した道具等は、異常がないことを確認し、確実に元の場所に返しましょう。

5 交流や体験、遊びを取り入れた『放課後子ども教室』のすすめかた

活動内容	子どもの姿	指導者の働きかけ
<p>1. 安全管理員や指導者の方に挨拶します。</p> <p>2. 活動内容を確認し、めあてを決めます。</p> <p>3. 活動します。</p> <p>4. 道具等を片付け、反省会をします。</p> <p>5. 次の活動内容や持ち物等について説明を聞きます。</p> <p>6. 安全管理員や指導者の方や友だちに挨拶して帰ります。</p>	<p>【挨拶】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇年〇組△△□□です。よろしくお願ひします。 <p>【めあて決め】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動は王様ドッジボールなので、めあては、「みんなで助け合い、相手チームに王様が分からないように工夫しよう」がよいと思います。 ・相手チームを馬鹿にする声かけはしない。 ・アウトかセーフか分からない場合、相談して決める。 <p>【活動】</p> <p>【片付け、反省会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・王様がだれか分からないようにみんなで工夫できたのでよかったです。 ・6年生の〇〇さんが2年生の△△さんを当てる時、力を抜いて優しくボールを投げていたので素敵だと思いました。△△さんもとてうれしそうでした。 <p>【次時の活動の確認】</p> <p>【挨拶】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。次もよろしくお願ひします。 	<ul style="list-style-type: none"> ■活動前に遊具や道具場所等の点検をする。 ■出欠席の確認をする。 ■安全管理日誌に記録する。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんなめあてがよいですか。 ・どんな約束が必要ですか。 ■約束が不十分な場合は、指導者から提案する。 <ul style="list-style-type: none"> ■全体観察、審判補助等、役割分担を明らかにし、安全面について、細心の注意を払う。 ・今日の活動のめあては守れましたか。紹介したい友達はいますか。 ・低学年の子も楽しく活動できるようにしてくれたんだね。約束には無かったけど、自分で考えてくれたんだね。 <ul style="list-style-type: none"> ■次回の持ち物を忘れないようにプリントを配布する。 <ul style="list-style-type: none"> ■下校の確認。安全管理日誌に記録する。

※子どもへの接し方については、別紙、「放課後まなび教室の手引き」をご参照ください。

